

令和5年 7月 7日 (金)

あさひの日だまり

NO.14

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～5年生が臨海学習へ行ってきました～

「楽しかったです!!」



三菱の工場見学。最初はそんなに楽しみじゃなかったけど、行ってみたら本当に楽しかったと子どもが言っていましたと先生がお話してくださいました。



いよいよフェリーで日間賀島へ。窓に張り付いて海を見つめる人。手前は笑顔でカメラにピース。



5年生が日間賀島へ臨海学習に行ってきました。天候が心配されましたが、1日目は好天。二日目は最後の見学地である名古屋港水族館にて雨に降られましたが、ほぼ全行程を雨による変更なしで行うことができました。

当日は、教頭先生に引率をお願いして、私は、学校で待機しておりました。5年生の帰りを待っていました。教頭先生からのショートメッセージで順調に旅行が進んでいることや、それぞれの見学場所や体験を思いっきり楽しんでいる様子が伝わってきました。1日の休みを挟んだ金曜日の朝、1組と2組の皆さんの教室を訪ねて、「臨海学習楽しかったですか」と尋ねてみました。声をあわせて「楽しかったー」と返事が返ってきました。中には「めっちゃ楽しかった!」と答えてくれた人もいました。

写真フォルダの中に収められた先生方がお撮りになった子どもたちのすがたを見ると、初めての地を友だちと思い切り楽しんでいる子どもたちの表情が手に取るようにわかります。何枚かを紹介します。

6年生の皆さんは、昨年の楽しかった思い出がよみがえってくると思います。4年生の皆さんは来年は写真の中のその場に自分が立っています。楽しみにしててくださいね。



これこそ海のだいご味。

海水浴でプールでは感じられない自然の中に溶け込む自分の存在を満喫しています。海の中の感覚を友だちと共有していることで思い出もより鮮やかなものになったに違いありません。クルージングも海の広さを実感するひと時です。そしてなんといっても海の幸。タコがまるまる1匹。そして刺身の大皿。なかなかお目にかかれぬ光景です。



地元の方の企画で行われたビーチファイヤー。定番の火の神が降臨。「企画が工夫されていて子どもたちもすごく喜んでいました」（教頭先生談）



っと長く続いてくれたらいいのと思うものです。そんな一抹の寂しさとともに体験が思い出に変わり始めます。



あじの干物作り体験の様子です。私たちは日頃魚の干物はスーパーの冷蔵コーナーに陳列されているのを目にするだけです。その横には生鮮野菜やお菓子が同じように並べられ、「命をいただくことで生かされている自分」を意識することはほとんどありません。

こうやって、海を泳いでいた魚の姿を、自分の手で食べ物の変える体験は本当に貴重なことです。「生きているものをいただいている」ことを実感できる機会でもあります。

数日後に各家庭にお子様が開いたあじの干物がとどきます。「私たちがいつもいただいている食べ物は、最初から人に食べられるために準備されているわけじゃあないんだね」「感謝の気持ちを忘れないようにしたいね」ということを話題にしながら、ご家族で味わっていただけたらと思います。

左上の写真は、楽しみにしている子どもたちが多かった昼食バイキングです。料理の内容も子どもの好みに合わせて変えて下さってあったようです。おかわりを何度もした人も多かったと思います。先生方も満喫しましたと後から話しておられました。

最後の見学地が名古屋港水族館でした。この辺りから雨に降られました。旅の終わりが近づくと、この時間がも



金曜日に集会室で臨海学習の振り返りをしていました。先生が、「振り返りを新聞の形で残しましょう。内容は4つをお願いします」と提案していました。「夜寝るときのこと書きたい!」「何書こうかな〜」「もう3つ決まった!」口々に子どもたちが声を出していました。私は、まとめの文章を早く書きたいと願っている子どもたちの姿を目の前にして、本当に貴重な時間を子どもたちはみんなと一緒に過ごしてきたんだということを改めて実感しました。